

ゑづりあしく、かきつむぎといふも、此るいにて同じたぐいなり、

まへつむぎ まへつむぎ 生五分、あをみ入、
こんなへともいふ こんなへともいふ 粉壹匁

大ききつむぎに同じ、總身くろく目の上に白き筋まゆのごとく有、さへづりほそし、冬いづる、

黒鶉 黒しなへともいふ 生五分、あをみ入、
粉壹匁

大ききつむぎに同じ、總身くろくはら白し、くろきごまふ有、はしと足きにてきれいなり、さゑづ

り大おんにてよし、子がひ尤よし、

いわつむぎ いそひよともいふ 生五分、あをみ入、
粉壹匁

大ききつむぎに同じ、總身あをぐるくるりいろにて、はらがば色のふ有て見事なり、さへづりよ

し、あら鳥よろしからず、子がひよし、つむぎのるいのうち上品の鳥なり、

ぬえつむぎ ぬえつむぎ 生五分、あをみ入、
粉壹匁

大ききつむぎに大きし、總身きいろにくろきふばらくと有、さへづり悪し、

〔飼鳥必用〕朝鮮鶉。

此鳥の形つまり頭にて、薄き紅から色薄く黒色筋有り、脊縁青色、尾の付根はぐんぞやう色、羽色胸より腹迄は薄赤、腹の中極赤流レ筋あり、尾の下迄とをる也、尾羽短し、足は鳥の好合にて替長く見へ能くさへたるを不聞、薩州山川の邊にて間々あい渡る、筑前にて渡りたる事あり、何れにも九州へは朝鮮表の鳥、風に寄相渡る也、

〔食物和歌本草〕鶉

つぐみ平淋病に吉腎つかれ陰なへ腰の痛にぞよき つぐみよく虚を補て氣力ます諸病に用ひさして毒なし

〔拾遺和歌集七物名〕つぐみ

大伴黒主